

# みらまち緑が丘・青山推進機構 (通称：みらまち機構) の紹介

---

一般社団法人みらまち緑が丘・青山推進機構

2024年11月23日

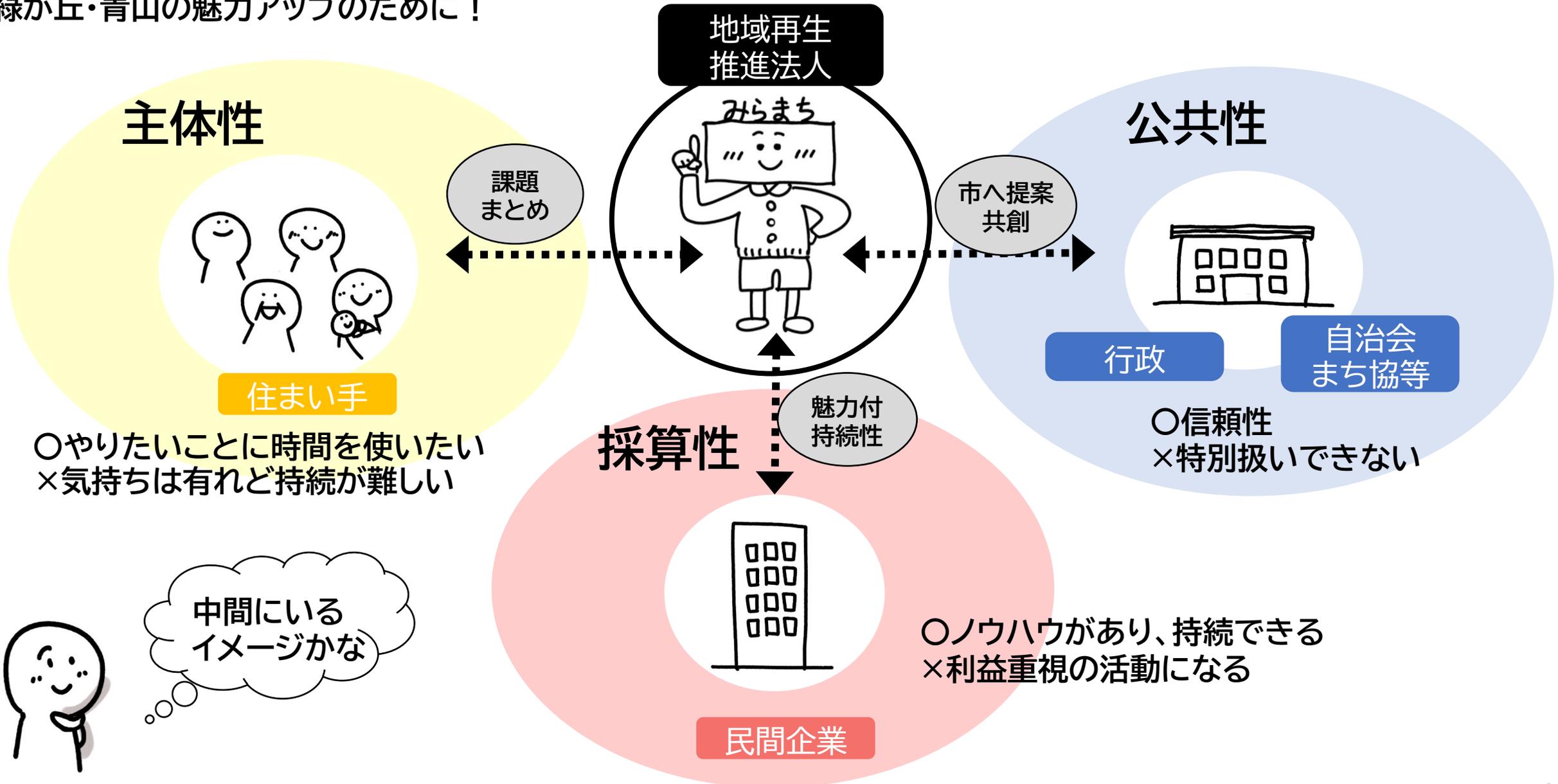
## まちの主役のみなさん、

- 暮らしを楽しんでいますか？
- やりたいことができていますか？
- まちに便利なサービスがあればいいのに、  
…なんて思ったことはありませんか？



まちに住むみなさんが、  
地域を、より便利に、楽しく、やりたいことができるまちづくりを、  
形にして提案すると、行政も検討してくれるという法律の枠組み  
ができました！

このような立場の法人(※)がまちづくりには必要 と、国も考えています。 ※地域再生推進法人といいます。  
緑が丘・青山の魅力アップのために！



まずは、みらまち機構は地域再生推進法人※  
になることを目標にしています。

要件を満たし、  
市町村に指定される必要

今はここ

Step1

みらまち機構は  
地域再生推進法人  
の指定を目標とする

Step2

住まい手の皆さんの  
意見を踏まえて  
三木市に提案

Step3

協議会で  
関係者と議論して

計画書作成

いろいろな規制

事業の実施

※改正地域再生法による制度

■ポイントとなる主な要件

- 非営利を目的とした法人
- 住まい手の意見を確認し、まちの将来像を作る
- 事業計画に載せる具体的な施策・体制・取組

■みらまち機構 指定の可能性あり

- やる気がある一般社団法人(非営利)である
- アンケート実施(定量的客観的な確認方法)とワークショップ、ヒアリングによる深堀(今後)
- 企業が伴走や連携(本イベントも!)しているので、住まい手の考えを整理し、実施が可能

皆様のご意見をお聞かせ下さい!



# これまでのあゆみ

START

1回休憩

再開

現在

生涯活躍のまち  
推進機構 発足



みどりん



自動運転



健康相談(IoT)



クラウドソーシング

みらまち機構として  
再開



コーヒー提供



レンタルボックス

実績

課題

持続性運営に  
向けて改善

- 緑が丘プラザみどりん
- チーム制クラウドソーシング事業
- 健康ステーション事業 健康測定・相談

- 地域団体と連携不足
- 補助金頼みの運営

- 小さな収益事業からスタート  
みなさんの喜ばれる事業を取り入れながら  
持続性のある法人をめざしています

# 一般社団法人 みらまち 緑が丘・青山 推進機構

(以下、みらまち機構といいます)

三木市のSDGs未来都市に賛同し、  
地域にお住まいの皆様が主役になる、  
「住み続けられるまちづくり」を  
みらまち機構はめざします

めざす1  
総合  
相談窓口

困ったらとりあえずココ！（みらまち機構へ）

困りごとがあったときに、どこに相談したらよいかわからない、  
健康や、介護、相続、子育てなど、悩みを聞いて、相談先をつなぐ役割を担っていきます。

めざす2  
住民組織  
サポート

まちの担い手は大変、協力を。

日々の忙しい生活のなかで、自治会、まちづくり協議会の活動が  
負担になっている場面もあると聞きます。  
事務的なことを効率化するためのマニュアル化や事業などのお手伝いが可能です。

めざす3  
青山7丁目  
交流施設運営

地域‘の’施設を地域‘で’運営する

青山7丁目に交流施設(下記イメージ図)が整備されます。  
ここは小さなお子様をもつ家庭から高齢者まで多様で多世代のための施設です。  
地域の施設を地域で支えるために、運営の参画をめざします。



青山7丁目 交流施設は、団地再生の中心拠点です  
みらまち機構は、この施設運営の参画をめざします  
2025年度開業予定

## Pick Up !

広報みき  
2024年5月号に  
みらまち機構を  
紹介されました！



# 11/23(土) 11:00~14:00 @コープこうべ協同学苑

## みらいふフェスタ

キッチンカーやいろんな企業が集まります。  
楽しみにしてください。（※後日、チラシ配布予定）





ご清聴ありがとうございました。

一般社団法人みらまち緑が丘・青山推進機構



みらいふ  
フェスタ

## 説明の趣旨メモ

1. 最近のまちづくりが変化
2. なぜみらまち機構がこんなイベントをやって皆さんにみらまち機構を知ってもらいたいのか
3. みらまち機構とは何か

### 【1ページ】 1. 最近のまちづくりの変化

- まちの主役は緑が丘・青山にお住まい皆さんです。日々の仕事、子育て、介護、物価高の中家計のやりくり色々考えることがいっぱいと思います。でもみなさんがやりたいことがやれて、ほしいサービスがあること、、これが理想的なんだと思います。
- 足りないものがあると思う方がいたとして、、よし！自分で動いてみよう！とした時にどうなるか、、という三コマ漫画を作ってみました。
  - ① 日々感じている皆さんの良いまちにするための意見はたくさんありますよね。
  - ② いざ、何かできないかと思った時には何から手を付けていいか、一人じゃ無理、、となると思います、、
  - ③ 仲間を取り組もう！となっても、法律など制度があって進めるのが難しいことも出てくると思います。

最近のまちづくりが変わってきたというのは、このようにまちを良くしたい！と思う方が支援してもらいやすく動きやすくなってきた、ということです。

もしかしたらこれまでは行政がやってくれるという時代だったかもしれませんが。今や補助金もやる気のあるところにしか出ないというような傾向もあります。

【2ページ】 2. なぜみらまち機構がこんなイベントをやって皆さんにみらまち機構を知ってもらいたいのか

みらまち機構は、先ほど触れたような「こんなことをしたい」と考えてらっしゃる方と繋がりたい。ご意見を伺って形にしていきたいという思いがあります。みらまち機構は株式会社でもNPOでもなく一般社団法人という形の会社ですが、皆さんの間を取り持とうとしています。

- 三コマ漫画のように緑が丘・青山でもし新しくこんなことをしようとした時にどうなるか、少し考えますと、
- 黄色：本日お越しの皆さんです。緑が丘・青山の主演である住まい手さんです。まさにやりたいことに時間を使われたいということだと思いますが、気持ちがあっても日々の忙しさや費用面や人手等の問題で持続が難しい、ということに直面するかもしれません。
  - 青色：行政や日々地域で頑張っている自治会・まち協さんです。その存在が地域の中で信頼性のあるものです。あえて動きにくさがあるとしたら、公平にしないといけないというところでは。例えば特定の世代、地域に向けた取組みはよほど根拠がないと特別扱いとされできません、となると思います。
  - 赤色：民間企業です。市場性があれば色々なノウハウを持っているので継続できます。ただ、株主への利益還元とか制約がありどうしても利益重視の活動になります。

みらまち機構はそれぞれを繋ぎながら緑が丘・青山のまちづくりに関わっていきこう（グレー記載）としています。住まい手の皆さまから抱えてらっしゃる課題をお聞きしそれをまとめ、より緑が丘・青山の魅力に繋がるように、補助金に頼らず続けられるように、参画してくれる民間企業を連れてきます。皆さんから伺った内容を、企業、自治会・まち協、住まい手の皆さんそれぞれが取り組めることとしてまとめ、内容に応じてまち協さんや市に提案します。市とは、どうしたら法規制をクリアできるか、まち協とはどうしたらより地域活動を負担感を減らしながら継続できるか、などを一緒に考えていきます。

実は、先ほどのまちづくりがかわって来たという話に繋がりますが、国も地域の魅力アップのために（いわゆる団地再生のために）そんな間を取り持つ組織を必要としています。表現としては、地域再生推進法人というもので、その制度がつくられました。

### 【3ページ】 3. みらまち機構とは何か（目指すこと）

みらまち機構は、まずはこの地域再生推進法人の指定を受けることを目指しています。

指定条件は、非営利を目的とした法人であること、住まい手の皆さんの意見をお聞きし、まちの将来像を作れること、実際に計画をつくった際には実現できる打ち手や体制を作れること、などが挙げられています。みらまち機構の状況は、一つ目の要件ですが、非営利の一般社団法人です。将来像をつくることに向けては、今回のイベントを実施したり、まち協さんともお話をし始めています。打ち手や体制のところですが、本イベントもそうですが、既に企業と連携できる状況になっています。

指定後は、この階段の絵でいくと、STEP2になって皆さまからお伺いした話をまとめ、三木市に提案します。STEP3では、提案を受け取った市は色々な関連団体を交えて協議して市としての計画にしていきます。協議にはみらまち機構も関わります。そうしてできた計画は、できた段階で法律の壁を飛び越えられることとなります。事業実施のところでもみらまち機構がしっかりお手伝いしていきます。例えば、緑が丘にも青山にも大きな公園がありますが、キッチンカーを呼ぶことには色々な規制がかかりますが、そんな内容も入れておくと手続きが簡素化され呼びやすくなります。

ですので、今後皆様のご意見を色々な場面でお聞きしていきますので、まず今日はみらまち機構を知って下さいというお話でした。